

2019年奈良市観光入込客数調査報告  
～【参考値】観光消費額の変更について～

- 2019年の奈良市観光入込客数調査報告は、令和2年7月14日に公表したところですが、参考値としている観光消費額については、「観光入込客に関する共通基準」に基づき奈良県が実施・公表しているデータの公表時期が異なることから、前年（2018年）の観光消費額単価を使用して推計していました。

この度、奈良県の令和元年データが公表されたことに伴い、奈良市観光入込客数調査報告書中の観光消費額を変更することとしました。

<変更点>

（観光消費額）

- ・ 令和元年の奈良県における観光消費額単価は、宿泊客が24,807円、日帰り客が4,569円となります。これを奈良市の観光入込客数に乗じて、奈良市内の観光消費額を推計すると、約1,147.2億円となり、前年の約1,208.0億円から約60.8億円減となります。

（うち外国人の観光消費額）

- ・ 令和元年の奈良県における外国人の観光消費額単価は、宿泊客が27,079円、日帰り客が5,914円となります。これを奈良市の外国人観光入込客数に乗じて奈良市内の外国人観光消費額を推計すると、約290.0億円となり、前年の約273.4億円から約16.6億円増となります。
- ・ 詳細は、報告書をご参照ください。

## 2019年 奈良市観光入込客数について

### 1. 概要

2019年に奈良市を訪れた観光客は、1,741.1万人と、前年の1,702.5万人に比べて38.6万人（2.3%）増加しました。

一般観光客は、宿泊客が120.1万人で対前年比8.4%減、日帰り客が1,206.9万人で1.3%減、合計すると1,327.0万人で2.0%の減となりました。

修学旅行で奈良市を訪れた観光客数は、宿泊客が9.4万人で前年比8.7%減、日帰り客が72.9万人で前年比0.7%減、合計すると82.3万人で1.7%の減となりました。

外国人観光客は、宿泊客が44.3万人で対前年比36.7%増、日帰り客が287.5万人で23.5%増、合計すると331.8万人で25.2%増加しました。

表1 奈良市観光入込客数

種別		2018年 (万人)	2019年 (万人)	増減 (万人)	増減率 (%)
一般	宿泊	131.1	120.1	-11.0	-8.4
	日帰	1,222.6	1,206.9	-15.7	-1.3
	計	1,353.7	1,327.0	-26.7	-2.0
修学旅行	宿泊	10.3	9.4	-0.9	-8.7
	日帰	73.4	72.9	-0.5	-0.7
	計	83.7	82.3	-1.4	-1.7
外国人	宿泊	32.4	44.3	+11.9	+36.7
	日帰	232.7	287.5	+54.8	+23.5
	計	265.1	331.8	+66.7	+25.2
合計	宿泊	173.8	173.8	0	0.0
	日帰	1,528.7	1,567.3	+38.6	+2.5
	計	1,702.5	1,741.1	+38.6	+2.3

注：集計結果については、四捨五入の関係で積み上げた数値とその合計値は必ずしも一致しない。

## 2. 2019年奈良市の観光の状況

### (1) 全国の概況

観光庁の「旅行・観光消費動向調査」によると、2019年の国内宿泊旅行者数は3億1,162万人で前年に比べて7.1%増加し、国内日帰り旅行者数は2億7,548万人で前年に比べて1.8%の増加となりました。2019年は5月の10連休をはじめ連休の日並びが良かったことから、宿泊旅行者数が大きく増加したと考えられます。また、日本人の海外出国者数が2,000万人を突破(2,008万人、前年比+5.9%)しました。

2019年の訪日外国人旅行者数は、前年比2.2%増の3,188.2万人と、昨年(3,119.2万人)に引き続き3,000万人を突破しました。訪日外国人旅行消費額もラグビーワールドカップ2019日本大会といったビッグイベントの影響により欧州や豪州等からの旅行者が増加した影響を受け、4兆8,135億円と前年に比べて6.5%増加しました。

### (2) 奈良市の観光客数(全体)

2019年の奈良市の観光客数は1,741.1万人と、前年(1,702.5万人)に比べて2.3%の増加となりました。

宿泊客数は173.8万人と、前年(173.8万人)と同水準にとどまりました。内訳を見ると、外国人の宿泊客数が44.3万人と前年(32.4万人)に比べ11.9万人(36.7%)増加しました。一方、修学旅行の宿泊客数は9.4万人と前年(10.3万人)に比べ0.9万人(8.7%)の減少、一般の宿泊客数は120.1万人と、前年(131.1万人)に比べて11.0万人(8.4%)の減少となりました。

日帰り客数は1,567.3万人と、前年(1,528.7万人)に比べて38.6万人の増加となりました。内訳は、外国人の日帰り客数が287.5万人と前年(232.7万人)に比べて54.8万人(23.5%)の増、一般(前年比-1.3%)と修学旅行(前年比-0.7%)はどちらも減となりました。

2019年に観光客が最も多かった5月(181.6万人)と、最も少なかった2月(116.3万人)の差は65.3万人で、繁閑差は1.6倍でした。2009年の繁閑差は1.9倍でしたので、繁閑差は確実に縮小してきています。

表2 月別奈良市観光客数 (単位：万人)

	観光客数			観光客数	
		前年比			前年比
1月	126.6	+5.2	7月	122.4	+2.1
2月	116.3	+4.1	8月	133.3	-4.3
3月	172.9	+17.5	9月	126.7	+10.2
4月	152.2	-8.2	10月	155.4	-2.6
5月	181.6	+8.1	11月	181.2	+9.0
6月	143.0	-2.3	12月	129.5	-0.2

注：集計結果については、四捨五入の関係で積み上げた数値とその合計値は必ずしも一致しない。

各移動手段別の2019年の観光客数を前年と比較すると、電車による来訪観光客数は前年比26.8万人の増加(+2.6%)、モーターは前年比11.8万人の増加(+1.8%)となりました。モーターの内訳は、普通車は+13.9万人(+9.0%)、バスは-2.0万人(-0.4%)、二輪車が-0.2万人(-22.2%)となっています。2019年4月にオープンした奈良公園バスターミナルの影響や、外国人観光客、特に中国人観光客において団体旅行が減少し、個人旅行が増加傾向にあること等が増減の要因と考えられます。

表3 移動手段別観光入込客数

		2018年 (万人)	2019年 (万人)	増減 (万人)	増減率 (%)
軌道別	近鉄 <sup>※1</sup>	756.1	785.1	+29.0	+3.8
	JR <sup>※1</sup>	289.3	287.1	-2.2	-0.8
	(小計)	1,045.4	1,072.2	+26.8	+2.6
モーター別	普通車	155.1	169.0	+13.9	+9.0
	バス	501.2	499.2	-2.0	-0.4
	二輪車	0.9	0.7	-0.2	-22.2
	(小計)	657.1	668.9	+11.8	+1.8
計		1,702.5	1,741.1	+38.6	+2.3

※1 近鉄及びJRの入込客数は推計

### (3) 奈良市の外国人観光客数

奈良市を訪れた外国人観光客数は、331.8万人と、前年（265.1万人）から66.7万人の増加（+25.2%）となり、初めて300万人を突破しました。

観光庁の「訪日外国人消費動向調査」の2019年年間値によりますと、訪日外国人旅行者の11.7%が奈良県を訪問しており、前年（8.9%）に比べ2.8ポイントの増となりました。全国で比較しますと、東京、大阪、千葉、京都に次いで5番目に多く、訪問者数の増加率は全国一位となっております。

次に、奈良県への訪問率を国籍別に見ると、中国、スペイン、イタリアの順となっており、特にスペインは前年比でプラス6.9ポイントと、訪問率が大きく伸びています。日本の文化に興味のある欧州人旅行者の中でも初めて日本を訪れる旅行者の割合が高いスペイン人観光客は、ゴールデンルートを周遊している可能性が考えられ、ゴールデンルートから近い奈良へ多くの人が訪問していることが推察されます。

また、奈良市内に宿泊した外国人観光客を国籍・地域別に見ると、中国人の利用者が多い結果となりました。宿泊客数は、中国人の25.9万人に次いで米国、フランス、台湾の順となっております。全国に比べて欧州の旅行者が多く宿泊しています。

図1 奈良市外国人観光入込客数

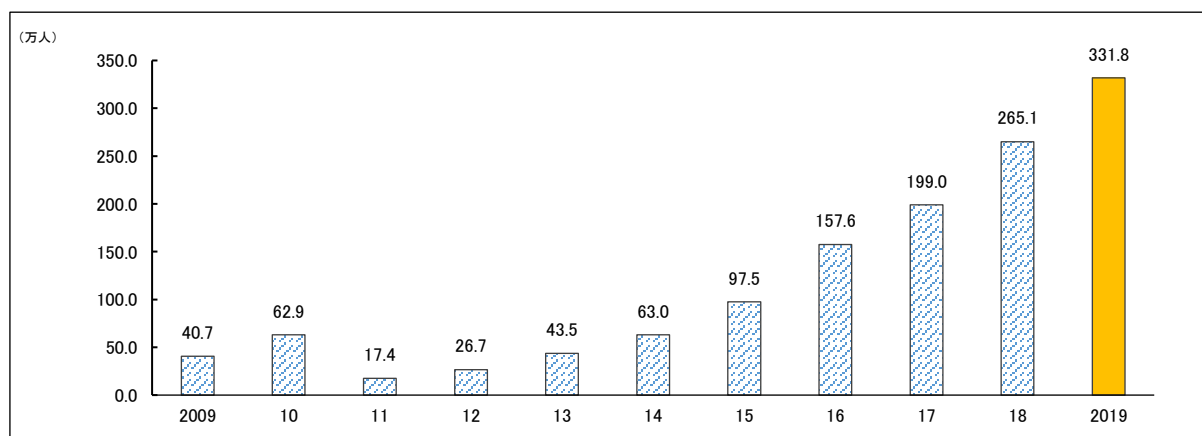


表4 外国人訪問者数上位5県

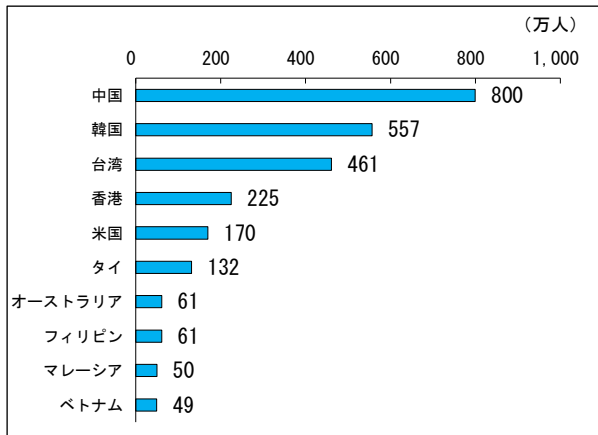
順位	都道府県名	2018 (万人)	2019 (万人)	増減 (万人)	増加率 (%)
1	東京都	1,316.3	1,410.3	94.0	7.1
2	大阪府	1,056.8	1,152.5	95.7	9.1
3	千葉県	1,028.6	1,048.5	19.9	1.9
4	京都府	743.5	830.1	86.6	11.7
5	奈良県	258.2	349.5	91.3	35.4

表5 外国人訪問者数増加率上位5県

順位	都道府県名	2018 (万人)	2019 (万人)	増減 (万人)	増加率 (%)
1	奈良県	258.2	349.5	91.3	35.4
2	山形県	8.8	11.9	3.1	34.8
3	岩手県	9.3	12.4	3.1	33.7
4	福井県	5.0	6.4	1.5	29.4
5	青森県	17.2	22.1	4.9	28.7

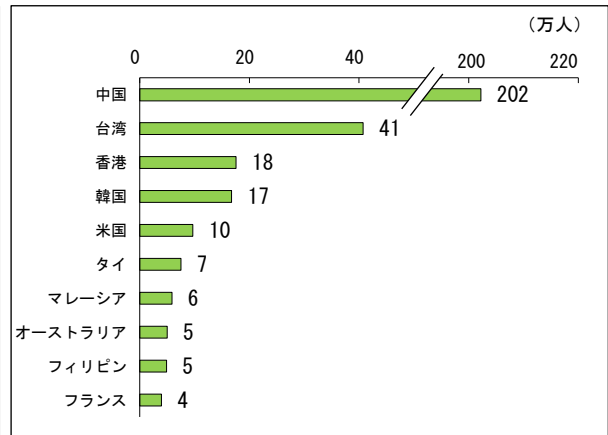
出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに奈良市作成

図2 訪日外客数上位10ヶ国



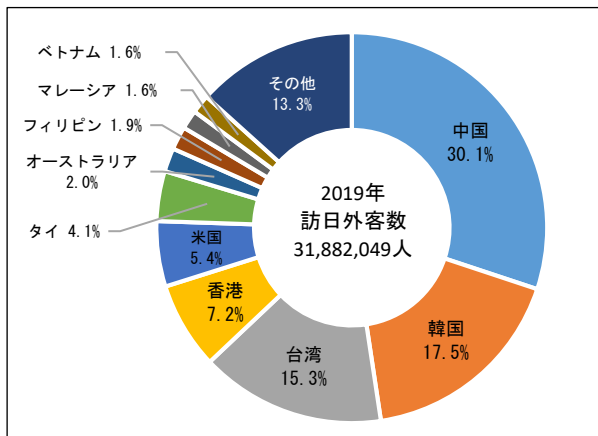
出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」をもとに奈良市作成

図3 奈良県への訪問者数上位10ヶ国



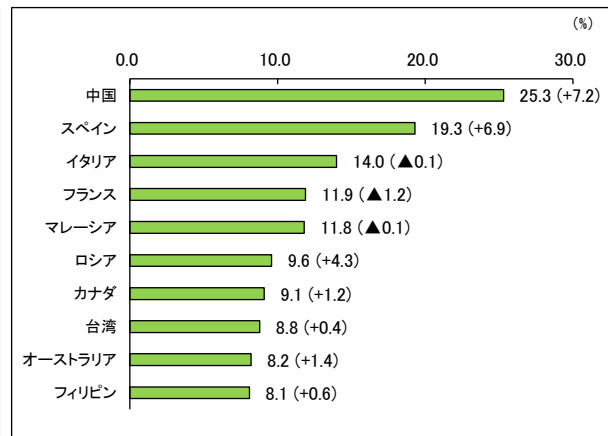
出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに奈良市作成

図4 訪日外客数国籍・地域別割合



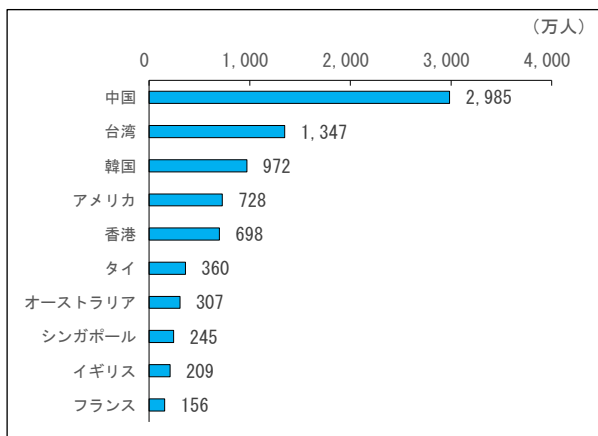
出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」をもとに奈良市作成

図5 奈良県への訪問率上位10ヶ国および対前年比



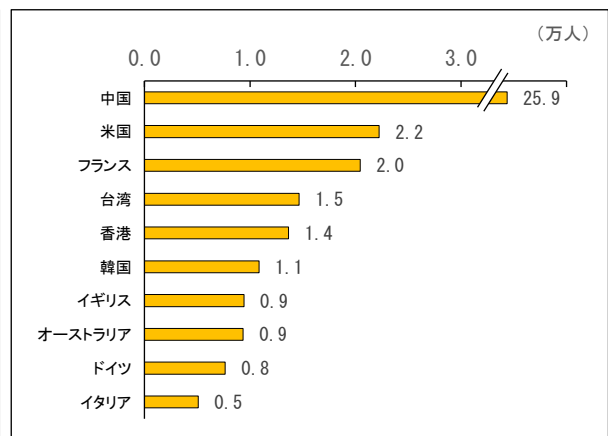
出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに奈良市作成

図6 全国の外国人宿泊者数上位10ヶ国



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに奈良市作成

図7 奈良市国籍・地域別外国人宿泊客数上位10ヶ国



#### (4) 修学旅行

表6 奈良市を訪れた修学旅行生数及び全国の生徒数推移

	2009	2010	2011	2012	2013	2014
全国生徒数 (万人)	1,420.4	1,412.0	1,401.8	1,388.7	1,375.4	1,366.3
奈良市を訪れた 修学旅行生数(万人)	78.2	102.6	81.6	82.5	87.6	89.9

	2015	2016	2017	2018	2019	2009-2019 増減率(%)
全国生徒数 (万人)	1,355.5	1,344.1	1,331.7	1,318.3	1,303.0	-8.3
奈良市を訪れた 修学旅行生数(万人)	85.5	86.9	82.5	83.7	82.3	+5.2

注：奈良市を訪れた修学旅行生数は暦年値、全国生徒数は年度値

出典（全国生徒数）：学校基本調査（文部科学省）

奈良市を訪れた修学旅行生数は、対前年比 1.4 万人減 (1.7%減) の 82.3 万人となりました。全国の生徒数が減少し続けている中、小学生は中部地方、中学生は首都圏を中心に「修学旅行は関西地方」という意識が根強く、80 万人を維持しています。

[参考 1] 奈良市内の観光消費額

「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき奈良県が実施した調査結果によると、2019年の奈良県における1人あたりの観光消費額は、宿泊が24,807円、日帰りが4,569円となっております。

上記1人あたりの観光消費額に、奈良市の2019年の観光入込客数を乗じて奈良市の観光消費額を推計すると、1,147.2億円(前年比60.8億円減)となります。

表7 奈良市の観光消費額(全体)

	観光消費単価 (奈良県 <u>2019年値</u> )	観光入込客数 (奈良市 2019年値)	観光消費額
宿泊客	<u>24,807円</u>	173.8万人	<u>431.1億円</u>
日帰り客	<u>4,569円</u>	1,567.3万人	<u>716.1億円</u>
合計			<u>1,147.2億円</u>

表8 奈良市の観光消費額(うち外国人)

	外国人観光消費単価 (奈良県 <u>2019年値</u> )	外国人観光入込客数 (奈良市 2019年値)	観光消費額
宿泊客	<u>27,079円</u>	44.3万人	<u>120.0億円</u>
日帰り客	<u>5,914円</u>	287.5万人	<u>170.0億円</u>
合計			<u>290.0億円</u>



## [参考 2] ビッグデータを用いた新型コロナウイルス感染症拡大による観光客の減少の把握について

2019 年 11 月に中国武漢で発生し、2020 年に世界各地に拡大した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、全世界において国際観光客に対する旅行制限を実施する動きが継続されています。JNTO (日本政府観光局) の発表によりますと、2020 年 4 月の訪日外客数は、前年同月比 99.9%減となりました (2019.4 : 2,926,685 人 → 2020.4 : 2,900 人)。また、奈良県においても 4 月 16 日から 5 月 14 日に緊急事態宣言が発令され、観光旅行が制限されたことにより、観光客が大きく減少しました。

今回、緊急事態宣言期間中の観光客の減少について、モバイルデータを用いてコロナ禍における奈良市の観光の状況を把握することとしました。

### ① 使用データ

KDDI LOCATION ANALYZER (au スマートフォンユーザーのうち、個別に同意を得たユーザーの位置情報について個人を特定できない処理を行った上で集計)

#### 1. データ集計期間

- 2020 年 4 月 16 日～5 月 14 日  
(比較のため 2019 年 4 月 16 日～5 月 14 日)
- 2020 年 5 月 15 日～5 月 31 日
- 2020 年 6 月 1 日～6 月 7 日

#### 2. データ取得範囲

近鉄奈良駅周辺および奈良公園周辺エリアにおいて、各エリアに 30 分以上滞在した人を集計。なお、集計データをもとに拡大推計しています。

#### 3. 居住者／勤務者／来街者について

本データは、取得したユーザー情報の最頻滞在地をもとに、エリア内に夜間 (22 時～29 時) 滞在している人を「居住者」、平日昼間 (8～19 時) 滞在している人を「勤務者」、それ以外を「来街者」と判定しています。今回は、来街者を観光客とみなして測定することとしました。

#### 4. 外国人観光客数について

本データには、訪日外国人観光客は含まれておりません。

② 緊急事態宣言発令中（4月16日から5月14日）の滞在者

今回調査した4つのエリアにおいて、滞在者数はいずれも大幅に減少しました。なお、前述のとおり本データには外国人観光客が含まれておりません。したがって、2019年に奈良市を訪れた外国人観光客は331.8万人だったことと、2020年4月の訪日外客数が前年比99.9%減であったことを考慮しますと、奈良公園など外国人観光客が多く訪れるところにおいては、30万人程度減少したと推察されます。

表9 緊急事態宣言発令中（4月16日から5月14日）の奈良市滞在者数

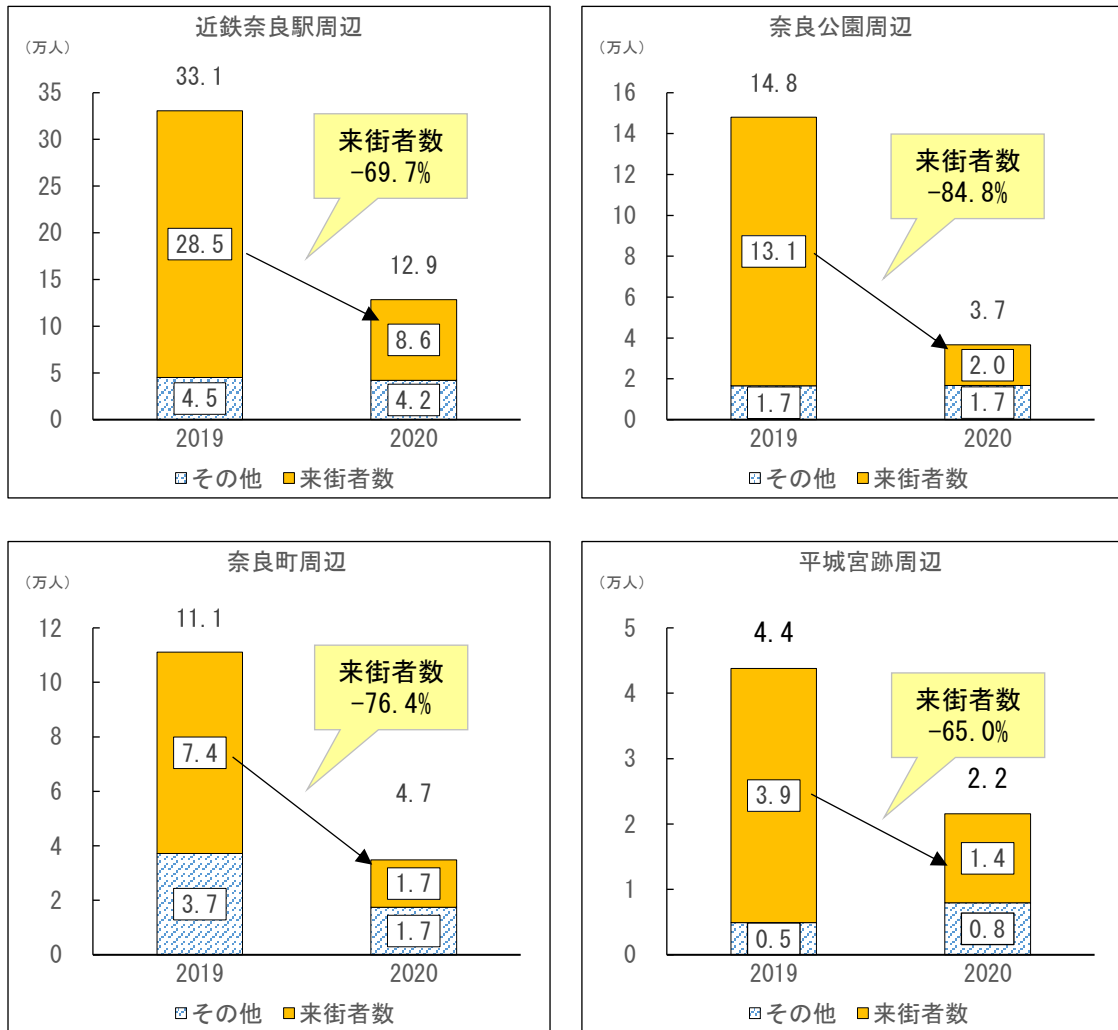
	2019		2020		増減率	
	滞在者 (人)	うち来街者 (人)	滞在者 (人)	うち来街者 (人)	滞在者 (%)	うち来街者 (%)
	330,726	285,489	128,629	86,424	▲ 61.1	▲ 69.7
近鉄奈良駅周辺	平日	166,791	133,899	89,940	▲ 46.1	▲ 56.7
	休祝日	163,932	151,589	38,687	▲ 76.4	▲ 81.3
	148,040	131,456	36,623	19,958	▲ 75.3	▲ 84.8
奈良公園周辺	平日	65,227	50,843	29,227	▲ 55.2	▲ 71.5
	休祝日	82,809	80,612	7,392	▲ 91.1	▲ 93.2
	111,112	73,928	46,644	17,463	▲ 58.0	▲ 76.4
奈良町周辺	平日	46,128	24,963	28,693	▲ 37.8	▲ 55.9
	休祝日	64,983	48,964	18,003	▲ 72.3	▲ 86.8
	43,795	38,886	21,551	13,600	▲ 50.8	▲ 65.0
平城宮跡周辺	平日	13,247	10,739	11,519	▲ 13.0	▲ 38.4
	休祝日	30,546	28,146	10,030	▲ 67.2	▲ 75.2

出典：KDDI LOCATION ANALYZER をもとに奈良市作成

注1：エリアに30分以上滞在した人を集計。エリア外から買い物に訪れた市民等も含まれる。

注2：本データに外国人は含まれない。

図8 緊急事態宣言発令中（4月16日から5月14日）前年同期の来街者数比較



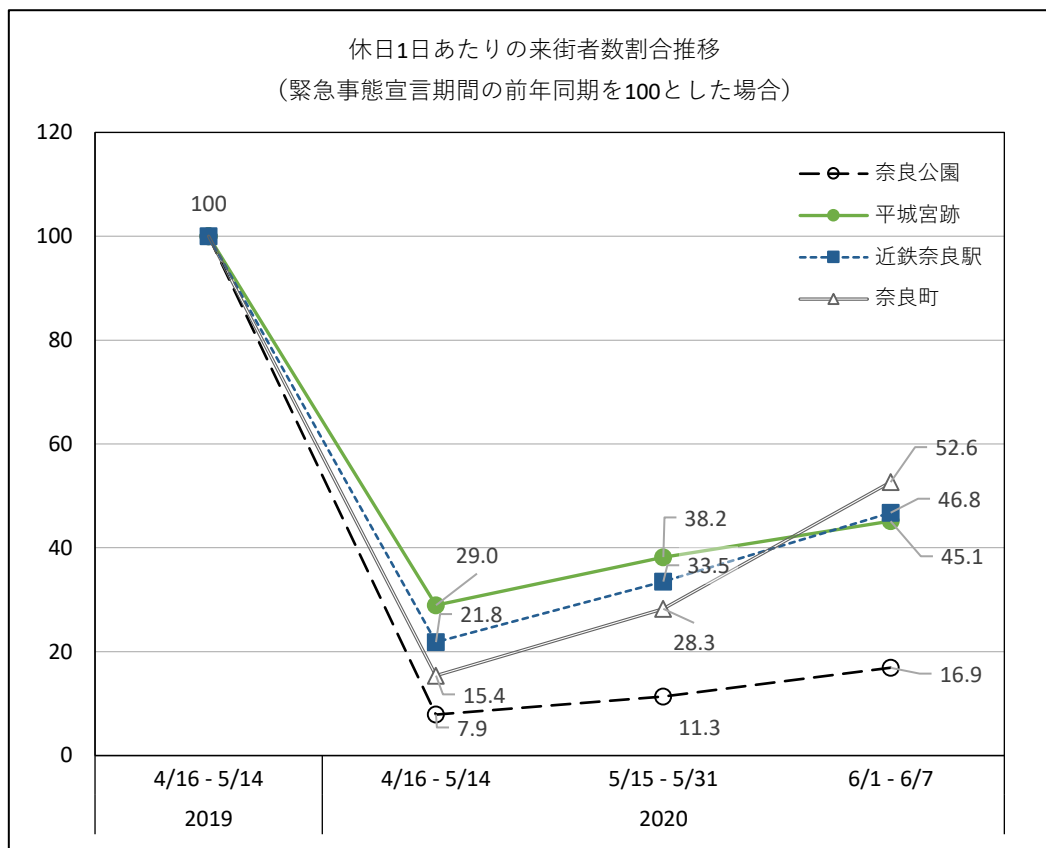
出典：KDDI LOCATION ANALYZER をもとに奈良市作成

注1：エリアに30分以上滞在した人を集計。エリア外から買い物に訪れた市民等も含まれる。

注2：本データに外国人は含まれない。

また、奈良県の緊急事態宣言が解除された翌日（5月15日）以降、来街者は徐々に増加しつつあります。しかし、本データは観光客以外にも、買い物や飲食等で30分以上滞在した地元の人なども含まれているため、観光客が訪れてにぎわいが戻るにはまだ時間がかかると推察されます。

図9 緊急事態宣言発令中および解除後における休日1日あたりの来街者数比較



出典：KDDI LOCATION ANALYZER をもとに奈良市作成

注1：エリアに30分以上滞在した来街者を集計。エリア外から買い物に訪れた市民等も含まれる。

注2：本データに外国人は含まれない。

### ③ 考察および課題

新型コロナウイルス感染症は、世界の観光産業に深刻なダメージを与えました。特に、近年増加傾向にあった外国人観光客がほぼゼロになったことで、観光を基幹産業に成長させるとする国等においても計画はもとより、方針や目的まで根本的に見直す必要が生じています。しかし、奈良も含めてインバウンドに人気のあった観光地においては、近年、オーバーツーリズムが課題となりつつあったことを鑑みますと、これまでの施策等を検証し、コロナ終息後にこれまでの観光地の姿に戻すのではなく、未来の観光都市を再構築する契機と捉えることもできます。

奈良市をはじめ各観光地が、現在の観光地の魅力だけでなく将来の観光地の在り方や計画・方針に重点を置き、独自性や特色など多様性を持つことができれば、観光の地方への広がりや、今後重要となる持続可能な開発にもつなげることが可能だと考えられます。